提出締め切り: 帰国後１ヶ月以内　　提出先: shien@asafas.kyoto-u.ac.jp

京都大学大学院　アジア・アフリカ地域研究研究科
2012 年度　JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名　　安念　真衣子　　22　年度（入学）

1.研究課題：
生活世界の現代的変容とリテラシー実践－ネパールのタマン人コミュニティに着目して

2. 渡航先：ネパール
現地滞在期間：平成　24　年　11　月　27　日　　～　25　年　2　月　22　日　（　88　日間）

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

申請時には、今回の渡航の目的として、これまで調査を行ってきた J 村での継続調査を行い、調査地域において見られる生計活動の現状把握とリテラシー活動場面の把握の二点を重点的に調べることを目的に挙げた。識字教育活動に着目してきたこれまでの研究から、リテラシー実践へと着眼点を広げるにあたり、具体的にどのような活動が見られるのかを把握しようとするものである。

派遣を通して、J 村におけるインタビュー及び参与観察では、これまでに見ることのなかったリテラシー活動場面を具体的に観察することが出来た（例えば、政府へ提出する書類や、看板など）。また、識字教育プロジェクト終了後の、女性たちのグループの動向を知ることが出来た。中には、識字教室で学習した女性が、ソーシャルワーカーとして自らの活動領域を広げている事例も知ることが出来、リテラシー実践と生計活動の広がりに関する自身の研究に有意義な渡航となった。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

自身の研究を進めるために、今後も継続してフィールドワークを行う予定である。それに向けた具体的な課題の一つとして、語学力の向上が挙げられる。これまで調査地の公用語であるネパール語の学習に努めて、調査のインタビューに必要な程度は身に付けてきたが、それと同時にタマン語の向上の必要がある。対象者は日常生活内で二言語を使用しており、多くの情報を収集し、より深い研究にするために欠くことの出来ない課題の一つである。また、今回の渡航期間中に国際ワークショップでの発表を行ったが、その経験から、国際的な場で議論を行っていく為の語学力の向上も課題の一つである。今回の派遣で得られた課題を次回の渡航までに少しでも解決させていきたい。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

本プログラムに参加して、3 か月という短期的な訪問で留学であったが、自身の研究にとっては充実したプログラムとなった。今後は、各々の研究段階と目的に応じて、期間を選択出来るようなプログラムがあると、留学希望者が実際に渡航可能になり、より研究に還元されるのではないかと思う（例えば、長期的なプログラム：6 ヶ月未満、あるいは 1 年といったものや、3 か月といった制限のないもの）。

＊1 ページを超えないようにしてください。

＊プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。

署名